

教科書十六ページ「春に」握手 知識及び技能

☆単元名「思考の幅を広げたい。その手段となる語彙や表現を豊かにするにはどうしたらいいか。」



まずは、教材で使われている漢字について「読み・書き」を知ったり、確認したりしていくといいのでは？

課題① 次の傍線のひらがなは漢字に、漢字は読みをひらがなで書こう。

『春に』

- (1) はらから声を出す。 ( ) (2) むねを痛める。 ( )
- (3) 争いのうず<sup>に</sup>巻き込まれる。 ( ) (4) 大声でよぶ。 ( )
- 『握手』

- (1) 洗濯をする。 ( ) (2) やっかいな代物 ( )
- (3) 穏やかな天気 ( ) (4) 穏健な人柄 ( )
- (5) 鶏舎の掃除 ( ) (6) 鶏のとさか ( )
- (7) 土地の開墾 ( ) (8) 野球部の監督 ( )
- (9) 帝国の支配者 ( ) (10) 泥だらけ ( )
- (11) 傲慢な態度 ( ) (12) 祖父の遺言 ( )
- (13) 事件を捜査 ( ) (14) 飼い犬を捜す ( )
- (15) 冗談を言う ( ) (16) 冗長な文章 ( )
- (17) 姓名を記入 ( ) (18) 同姓同名 ( )
- (19) もうすぐ一週忌 ( ) (20) 忌中 ( )
- (21) 土地を分割 ( ) (22) 爪を切る ( )

課題② 次の言葉の意味を調べて書こう。

「よどむ」の意味は色々あるね。「川のダムにせまてめられ」とい  
う「よどむ」は、既に比喩が使われているので、①の意味のようだ  
けれど同時に②の意味もあるんだよ。ちゃんと読み取れたな。あて  
はまのてい「よどむ」をつけてお「よどむ」。



握手	握手	握手	握手	握手	握手	握手	握手	春に	春に	春に
平凡	いとまごい	地道	こたえる	奇妙	気前がいい	年季が入る	達者	もどかしい	せめぎあう	よどむ
特に優れたところがなく、並みなこと。 ㊦ 「平凡な作品」 対義語【「平凡に暮らす」】										
										㊦ 流れる水がとどこおってとまる。 ㊦ 事がすすらと進まない。 ㊦ ためらう。 ㊦ 水底に沈んでたまる。

課題③ 詩の中で使われている表現技法を捉えよう。



詩「春に」の中で使われている 表現技法を見つけ出そう。

(1) 対句になっているところを例に従って書き出そう。

例 「沖には平家、舟を一面に並べて見物す。」

「陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る」

対句とは、「言葉の形や意味が対応するように並べる方法」のこと。それを使つと、リズムや意味の面でもまとまりが生まれるわね。

「春に」の中で使われている箇所は「力所じゃないわね。」



(2) 次の二人の会話を読んで、(A)それぞれの空欄にあてはまる言葉を書こう。「□□」の□は字数を表す。

【松本さん】 「中学校一年生で『さまざまな表現技法』を勉強したことを思い出していたんだよ。」

【川上さん】 「表現技法って、『対句』とかのことだよな。」

【松本さん】 「そうだよ。他にも……」

「きつぱりとした印象やしみじみとした余韻を残すために、文末や句末を体言(名詞)で結ぶ方法(□□□□)」

□ 普通の言い方と言葉の順序を入れ替えて、歯切れのよいリズムや情景や心情を強調する (□□□)

□ 同じ言葉を繰り返してリズムを生み出したり、描かれている心情や情景を強調する (□□□)

□ 表したい情景や心情を言い切らず、文章や言葉を途中で止めて、後を省略する方法 (□□□)

＜ 物事を、他のものにとえて表現することを「比喻」と言う。比喻には主に三つの方法がある。

・「まるで……」「あたかも……」「……ようだ」などの言葉を使ったとえる方法 (□□□)

・「まるで」「ようだ」などの言葉を使わずにたとえる方法 (□□□)

・人間でないものを人間にたとえて表す方法。自然現象や物体などを人間の行動や気持ちになぞらえるので

生き生きとした印象を与える。 (□□□□)

課題 ③の(2)の(B) 続いて、(B)「春に」の中から、それぞれの技法を探し出し、書き出しておこう。

春に

谷川俊太郎

この気もちはなんだろう  
目に見えないエネルギーの流れが  
大地からあしのうらを伝わって  
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ  
声にならないさけびとなつてこみあげる  
この気もちはなんだろう  
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく  
よろこびだ しかしかなしみでもある  
いらだちだ しかもやすらぎがある  
あこがれだ そしていかりがかくれている  
心のダムにせきとめられ  
よどみ渦まきせめぎあい  
いまあふれようとする  
この気もちはなんだろう  
あの空のあの青に手をひたしたい  
まだ会ったことのないすべての人と  
会ってみたい話してみたい  
あしたとあきつてが一度にくるといい  
ぼくはもどかしい  
地平線のかなたへと歩きつづけたい  
そのくせこの草の上でじっとしていたい  
大声でだれかを呼びたい  
そのくせひとりで黙っていたい  
この気もちはなんだろう

## 自己評価をしましょう



この自己評価は皆さん自身が自分の学びを振り返るためのもの・皆さんの理解度や疑問を知るための、先生の評価とは関係ありません。

### 課題① 教材に登場している 漢字の読み書きが理解できたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

なにかあれば

【一言コメント

】

### 課題② 教材に登場する言葉の意味を調べ、確認することができたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

なにかあれば

【一言コメント

】

### 課題③ 詩の中で使われている表現技法についての知識を確認できたか。

十分に	まずまず	自信がないが	できなかった。
できた。満足。	できた。	なんとかできた。	

なにかあれば

【一言コメント

】

学習を終えて、分からないこと、疑問に思うことがあれば書き出しておこう。